

長岡税務署長賞

税金の存在意義と現在の問題点

長岡凜晴学院

三年 瀬下 果音

まず始めに税金とは、国や地方団体が公共財やサービスの経費として法令に基づき国民や住民に負担を求める金銭のことです。身近な例を挙げるとすれば、買い物をした際に発生する消費税や、給料に応じて発生する所得税、住民税などがあります。他にも多くの細かな税金が存在します。

なぜ物を購入したり、給料を得たりした以外にも関わらず、余分に金銭を取らなければいけないのか、と不満を持つことも少なくはないと思います。ですが、様々な形で集められた税金は、私達の日々の生活を支える重要な役割を担っています。

では、税金がどのように私達の生活を支えているのか、具体例を挙げていきたいと思います。第一に挙げられる物は、公共サービスの無償化です。税金がなければ、交番や救急車などが全て自己負担となり、病院での治療の際も全額の負担となります。例えば交通事故が起きた場合、救急車で搬送され、事故現場の検証のために警察が動員され、怪我の治療のために病院で診察されます。これら全てが自己負担となったら、どれだけの金額になるか想像もつきません。ですが、現在のように税金制度があれば、今受けた公共サービスの負担

額がほとんど税金から支払われることとなります。その他にも、ゴミの収集や道路の環境整備など、生活に欠かせない多くのことが税金で補われています。このことから、税金の存在意義とは私達の生活を安全に、そしてより快適にするためだと私は考えます。

決して欠かせない税金ではありますが、現在もいくつかの問題点も抱えています。

その一つが、超過累進税率です。所得が多くなるほど納税も増える制度ですが、本来は所得格差を考慮して定められました。しかし高所得者が高額納税に不満を持ち、脱税などを助長する原因となっていると考えます。

二つ目は、タックスヘイブンによる税金逃れの問題です。これは所得の多い企業が、高額納税を避けるために、税率の低い国に関連企業を作り、利益などを移すことにより本来払うべき税金を逃れようとする問題です。以前、パナマ文書で話題にもなりました。

これらの対策として、グローバルタックスというものがありません。これは情報の透明化や、税金をかける・使うことのための仕組み作りを行うものです。グローバルタックスによって全ての問題を解決できるわけでは無いと思いますが、日本や世界から税金逃れを減らす大きな一歩だと考えています。

私は税金の仕組みや問題点をもっと多くの人に知ってもらいたいのです。一人一人が税金に対して関心をもち、考えることで、日本の更なる発展や暮らしの向上に繋がると考えます。私達の生きる、この日本の未来をより安心して過ごせるように、まずは私が税金をもっと知り、そして多くの人に発信していきたいと思えます。